

若手研究者奨励賞 2024 受賞者と講評

受賞者 1：須佐大樹(立命館大学 経済学部 准教授)

<https://researchmap.jp/taikisusa>

須佐大樹氏は、2015 年に名古屋大学で博士（経済学）を取得して以来、政治的租税競争理論と呼ばれる新たな研究領域で国際的な業績を挙げている研究者である。

International Tax and Public Finance に掲載された 2 本の論文では、国内の資本所得分布が選挙を通じて選出される政治リーダーのタイプを決定し、それが古典的な租税競争理論では捉えきれなかった均衡の性質を新たに浮き彫りにするという、重要な貢献を果たしている。また、2024 年に Review of International Economics に掲載された最新の論文では、国内の所得分布と国間の輸送費用が、政治的交渉を経て決定される貿易協定の形態を左右する理論を構築し、須佐氏の分析フレームの近接政策分野への応用可能性を示している。須佐氏の研究は、租税競争理論をさらに深化させ、財政理論の新領域を切り開くものであるといえ、須佐大樹氏が本年度の若手研究者奨励賞受賞にふさわしい研究者であると評価する。

受賞者 2：小西杏奈氏(専修大学 経済学部 国際経済学科 准教授)

https://researchmap.jp/a_konishi

小西杏奈氏は、フランスの財政史を専門とする気鋭の研究者である。パリ第一パンテオン・ソルボンヌ大学で博士（歴史学）を取得し、1950 年代から 60 年代にかけてのフランス税制史、欧州税制史に関する優れた論文を発表してきた。小西氏は、財政学はもとより、内外の歴史、地域研究の学会にも活躍の場を置いており、フランスで発掘した一次史料を用いた精緻な分析が評価され、2020 年に EU 研究奨励賞（日本 EU 学会）を受賞した。また、科研費の国際共同研究強化（B）の研究代表者でもあり、国外の著名な財政史研究者が一堂に会した国際カンファランス “Reconsidering History, Diversity, and Legitimacy of Public Finances, Fiscal States, and Social Contracts during the 20th and 21st Centuries” を横浜国立大学の茂住政一郎氏と共同で主宰した。Conference volume の公刊に向けた呼びかけを行いつつ、これまでの業績をまとめた単著の公刊も近いとされる。小西氏は、新たなスタートを切った本学会若手研究者奨励賞の第一回受賞者に相応しい、優れた若手研究者である。